

教師の腕前診断

今回のテーマ

「締め切り前に仕上げる 通知表の書き方」

学期末や学年末、通知表・指導要録の所見には頭を悩ませられます。そこで、今回は所見を締め切り前に仕上げるというテーマです。

1 所見を書くタイミング

Q1 所見は、いつから書き始めますか？

- ① 学期末の短縮日課から
- ② 1ヶ月ごとに月末に
- ③ 1週間ごとに週末に
- ④ 始業式から



④の始業式からです。所見は学習・行動の「子どものよさ」を書きます。そのためには、すばらしい、偉い、感心した！と思ったことを書き溜めていけばよいのです。

春休みの間に子どもの名前を覚え、始業式に臨みます。校歌の歌声を聞きながら「彼が○○君か。大きな口を開けて歌うなあ」と思えば、「始業式の時、緊張しているにもかかわらず、大きな口を開けて校歌を立派に歌っていました。新しい学年への希望と意欲、さらに自分の学校に対する矜持と誇りを感じました」

と、その日の放課後にパソコン入力します。

最近パソコンで通知表を作成する学校が増えています。大方の学校では、書式は前年度の踏襲です。書式を前年度と同じように設定して、始業式の放課後から本番のつもりで入力します。こうして書き溜めておくと、いつの間にか所見欄が埋まります。場合によってはオーバーしてしまい、どうやって収めようかとうれしい悲鳴を上げてしまいます。せっかく入力した所見を削除するのはもったいないことです。後期に採用できそうな文言は後期用通知表にコピーしておきます。

2 記録の取り方

子どものよさを発見したら忘れないように記録します。あとでやろうと思うと忘れてしまいます。せっかくの宝が無駄になってしまいます。そうならないためにはそのつど記録することが大切です。

Q2 子どものよさは、何に記録しますか？

- ① デジカメ
- ② ノートパソコン
- ③ メモ用紙
- ④ ノート
- ⑤ 週案

書、子どものノートなどの保存用として使うことはもとより、掃除や給食の様子なども撮ります。初めの頃は写すたびに子どもたちはびっくりしたり、ポーズをとったりするので、慣れてくるとそれもなくります。教師がデジカメを構えても、普通に行動するようになります。

ある日、黒板係が言います。「先生、黒板を消してもいいですか。デジカメで写した？」それほど、デジカメが日常化されるまで使います。給食を完食した子は、空になった食器が入るようになってパチリとデジカメで記念撮影です。放課後にデジカメの履歴を見ます。それを再現して所見を入力します。「好き嫌いをせず、いつも給食を残さずに食べています。家庭科で学習した栄養のバランスを考えながら食べる順番を決めるなど健康な生活を送ろうという気持ちが伝わります。元気な生活を送る源となっています」

こうして「子どものよさ」を発見したらデジカメでも撮っておきます。デジカメで撮った「子どものよさ」は学級通信にも使います。一石二鳥です。

ただし、同僚から子どものよさを聞いた時、一瞬のできごとで撮りそこなった時など、デジカメで対応できないこともあります。そんな時は画用紙で作った名刺大のメモ用紙に記録します。10枚くらい重ねると硬さが生じ、下敷きがいりません。

また、A4版のノート（見開きになるとA3の大きさ）を活用します。一項目を見開きにし、そこに所見一覧のマスを設けます。左ページを男子、右ページを女子とします。各ペ

①のデジカメをお勧めします。

私はウエストバッグの中にデジカメ、4色ボールペン、画用紙で作った名刺大のメモ用紙を入れていきます。

デジカメはいつでもどこでも使えます。板

1ページの左側は提案文章、右側はメモ欄とし、これをいつでもどこでも持参しています。このメモ欄に日頃からメモします。そうすると全員のマスが一目瞭然となり、書けていない子が一目でわかります。パソコンでやっていることを、紙でも同様にできます。(この方法は、横山駿也氏の「教師必携」に横長の紙を蛇腹折りにして所見一覧のマスをつけている」というアイデアを参考にしました)

3 所見の文章表現

子どものよさを発見しても文章表現のしかたがわからないという声を聞きます。また、書き上げた所見を管理職に提出すると付箋紙(書き直し)がついて戻ってくる場合があります。

Q3 所見は、どのような表現にしますか？

- ① 指導要領を引用する
- ② 市販の所見集を引用する
- ③ 事実だけを書く
- ④ 前学年の指導要録を引用する

「①」の指導要領を引用します。公立学校の教師にとって指導要領は憲法と同じです。それを達成するために日々の教育活動を実施しています。絶対是の存在です。

学年初めには担任する学年の指導要領に目を通します。また、普段の授業では新しい単元に入る時や評価の段階で再度目を通します。そうすると、子どもの言動がそのどれに該当するのかという視点で日々の教育活動を行うことができます。また、指導要領の目標を

達成できるように、意図的な教育活動を心がけようと思えます。すると、子どものよさが指導要領の文言と一致するようになります。

例えば、習字が上手な子がいるとします。「教室の後ろに掲示されている習字の出来栄が際立っています」とパソコン入力します。

次に指導要領をあたります。3・4年生の場合、「毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書くこと」という文言があります。

この2つを合わせると、こうなります。

「習字では点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いているため、教室の後ろに掲示されている作品の出来栄が際立っています」

所見は事実や感想だけでは片落ちです。「それがどうしたのか、だから何なのか」という束ねが必要で、指導要領という「錦の御旗」を使って束ねます。こうすると、所見に威厳が出るだけでなく、公立学校の教員として職務を果たしていることがわかります。仮に管理職から付箋紙(書き直し)や保護者からのクレームがあっても、根拠を持って対応できます。

4 どうしても困ったら

学期末になったけど、どうしても所見を書けない子がいる、という経験はありませんか。

Q4 どうしても所見が埋まらない場合は、どうしますか？

- ① 本人にインタビューする
- ② アンケートをとる
- ③ 友達に聞く

お勧めは「②」の「アンケートをとる」です。「総合」の時間のまとめとしてアンケートをとります。年間指導計画には活動名・観点・評価規準が記されています。それを使って、アンケート用紙(反省用紙)を作成します。通知表・指導要録には、「活動名・観点・所見」を記すことになっています。

〈年間指導計画(合唱祭の例)〉

活動名・音楽の世界を広げよう

観点・続ける・広げる

規準・生活の中に音楽を楽しむ機会を増やす。

これを受けて、「これからの生活でいつ・どこで・どんな音楽を・誰と・どのようにして音楽に親しんでいこうと思えますか」という、アンケートを実施します。

これに対して、「テレビに出ている歌手の歌だけでなく、クラシックのような曲もこれから試してみたいと思いました。中学校に行ったら、部活で管弦楽をやりたいです」という子どもの記述がありました。

そこで、「総合」の所見には、「『音楽の世界を広げよう』では、歌うことの楽しさを通して、クラシックなど幅広いジャンルの音楽に興味を持ち、生活の中でそれらを楽しみたいという感想を持っていました。中学校では管弦楽をやりたいと希望に胸をふくらませるなど、さらに音楽の世界を広げようとしています」と書きます。

また、専科の先生に「先生ならどんな所見にしますか」と相談します。すると、担任が知らない具体的な事例を知ることができ、多面的に子どもを見られるようになります。